

塩谷南那須地域 ～明日へつなく！地域の活力、産地の躍動～

【現状と課題】

塩谷南那須地域は、高原山の山麓から八溝山系へと連なる豊かな大地により、鬼怒川左岸に広大な水田地帯を有するとともに、その東方の丘陵地では那珂川水系に沿って水田や畑地・樹園地が続いており、平地と中山間地域が隣接する地勢によって、多様性に富んだ里山環境が形成されています。

これまで、水田農業を基本とした営農が展開されてきた一方で、いちご、にら及びスプレー菊等の施設園芸産地が形成され、近年は、ねぎやさつまいも等の露地野菜でも生産拡大の機運が高まりつつあります。さらに、畜産部門は、肉用牛生産と酪農を中心に、省力化技術の導入による規模拡大が図られています。

しかし、担い手の急激な減少が進む中、県内の他地域よりも高齢化が進行していることから、将来の地域農業のあるべき姿を見据えた早急な担い手の確保・育成や生産体制の見直しが求められています。

このため、地域と産地を守っていく多様な担い手の参画とあわせて、担い手の活躍を地域が支えていく農村のコミュニティを形成し、その上で、合理的な農地利用や技術革新によって生産性を飛躍的に高めていく取組が必要となっています。

【推進方向】

- 人が集い農業・農村の持続性を育む「地域の振興」
- 地域特性と創意工夫を生かして稼ぐ「産地の振興」

プロジェクト1 地域の農業を支える基盤づくりと多様な人材の育成

人と農地の問題解決を図りつつ将来に渡って地域を守る視点に立ち、担い手と住民が相互に理解・協力し合う持続性のある地域営農を目指し、生産基盤の整備や地域資源を保全する取組を強化します。併せて、世代を超えた多様な人材の参画を促し、地域を紡ぐ活動に導いていきます。

	項目	現状値(2024)	目標値(2030)
成果指標	担い手への農地集積率	56.3 %	80.0 %
	新規就農者数 (5年間)	227 名	300 名
	共同活動に取り組む農地の割合	28 %	50 %



新規就農者の育成に向けた研修の実施

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 基盤整備等による担い手が活躍できる農地の条件整備と流動化の促進 ◆ 地域計画のブラッシュアップや営農組織の体制強化による持続可能な地域営農の構築 ◆ 新規就農相談員の設置や移住施策等との連携による多様な農業者の確保・育成 ◆ 直接支払制度の取組拡大や農地保全への住民合意形成による担い手を支える仕組みづくりの促進
	など

プロジェクト2 地域の特徴を生かした収益性の高い水田農業の実現

地域の基幹である水田農業は、大規模経営体によるスケールメリットの追求やスマート農業の導入などによる効率化を推進し、需要への対応力や産地の競争力を向上させるとともに、付加価値を高める取組を進め、戦略的な経営手法と生産方式による高収益化を目指します。

成果指標	項目	現状値(2024)	目標値(2030)
	経営面積100ha以上の経営体数	3 経営体	5 経営体
	50a以上の大区画水田面積	1,122 ha	⇒ 1,222 ha
	高温耐性水稻品種の作付割合	12 %	30 %



スマート農業技術実装

主な取組	取組内容
	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 農地の集積・集約化や水田輪作体系の構築による経営の効率化と規模拡大の推進 ◆ 大規模経営体のネットワーク化や「のれん分け」等による土地利用型経営体の育成 ◆ 土地利用型農業におけるスマート農業団地の形成や超低コスト化技術導入による次世代型生産方式への移行 ◆ 高温耐性品種や有機農業などの需要に応じた競争力のある生産体制の構築

など

プロジェクト3 多彩な品目が活力を生み出す園芸産地の確立

産地を牽引する意欲とスキルを備えた人材の育成に取り組むとともに、次代へつながる新たな品目や技術の導入を図りながら、園芸の生産力の向上を目指します。さらに、創意工夫により地域農業に多様性とブランド力を高めていきます。

成果指標	項目	現状値(2024)	目標値(2030)
	園芸部門新規就農者数 (5年間)	89 名	⇒ 130 名
	いちご・にら産出額	30 億円	33 億円
土地利用型園芸作物作付面積	93 ha	160 ha	



栽培研修による人材育成

主な取組	取組内容
	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 品目特化型研修体制の構築やトレーニングファームの設置による就農支援体制の強化 ◆ 経営資源の継承やトレーナー機能の充実などによる産地の人材確保・育成 ◆ いちごの苗供給体制の構築やいちご団地の形成による産地基盤の強化 ◆ さつまいもや里芋の生産拡大、にら等の新たな作型導入による産地の供給力のレベルアップ ◆ 地域特産野菜の振興や異業種と連携した新商品開発などによる地域色豊かな産地の育成

など